

## 事後評価報告書

日本-中国 研究交流「地震防災」領域（支援期間:平成 24～26 年度）

1. 研究課題名：「龍門山断層帯北東部とその周辺断層の活動史と地震発生危険度に関する研究」

2. 研究代表者名：

日本側： 東京大学 大学院理学系研究科 池田 安隆

相手側： 中国地震局 地質研究所 Shengli MA 副所長

3. 総合評価： A

4. 事後評価結果

### (1)研究成果の評価について

本研究は、龍門山断層帯の未破壊セグメントと周辺における地殻活動の調査により、未破壊セグメントの地震発生危険度を評価することを目的として実施された。龍門山断層帯北東部の地震発生危険度評価は中国にとって極めて重要な課題であり、日中の代表的な研究者が連携して、この課題に取り組んだことは、国際協力の促進という点で大きな意義を持つ。本研究では、日本側が開発したプログラム等について、中国側で講習会を開催するなどして相手国の技術向上に貢献するとともに、データ解析、サンプル採取に基づく分析、活断層マッピング、また、トレンチ調査など、大変幅広い研究活動が展開されており、中国側と共著となる国際学会発表を数多く行ったことは高く評価できる。

但し、論文発表はプロシーディングスに留まっていたことが残念である。今後は、共著論文の形での国際学術誌での発表を期待したい。

### (2)交流活動の評価について

日中両国ともに複数の研究機関からの研究者が参画し、横断的な交流が図られているなど交流活動は活発であり、今後とも継続的な交流が期待できる。また、本共同研究が契機となり、中国側の若手研究者が博士学位論文を執筆して日本で博士学位の指導を受けるに至ったこと、中国側メンバーとして参加していた博士研究員が日本側メンバーの所属機関である産業技術総合研究所に就職することになったなど、若手研究者の今後の交流に向けた基礎が築かれている。但し、日本側の若手研究者に関する交流活動の具体的な成果については明確さが足りないように思われる。